

## 安全データシート

作成日：2009年10月30日

改訂日：2016年07月01日

[SDS No. 12-2]

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称

製品名 : i J E S T A プレートクリーナー液 PC-1 J

会社情報

会社名 : 岩崎通信機株式会社

住所 : 東京都杉並区久我山1-7-41

担当部門 : 第一営業本部 第一営業部

電話番号 : 03-5370-5476

FAX番号 : 03-5370-5494

緊急連絡先 : 03-5370-5476

推奨用途及び使用上の制限

: プレートクリーナー液、i J E S T A用

### 2. 危険有害性の要約

GHS分類

下記に記載が無い項目は、「分類できない」あるいは「分類対象外」

物理化学的危険性 : 引火性液体 区分4

健康に対する有害性 : 急性毒性（経口）区分4

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分2A

環境に対する有害性 : 分類できない

ラベル要素

絵表記 :



注意喚起語 : 警告

危険有害性情報 : 可燃性液体  
飲み込むと有害  
強い眼刺激

注意書き

安全対策 : 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。  
容器を密閉しておくこと。  
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。  
静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
取扱い後は手をよく洗うこと。

この製品を使用するとき、飲食又は喫煙をしないこと。

- 応急処置 : 火災の場合：消火するために適切な消火剤を使用すること。  
飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。  
口をすすぐこと。  
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。  
眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。
- 保管 : 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
- 廃棄 : 内容、容器を都道府県知事の認可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託し廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

単一化学物質・混合物の区別：混合物

成分及び含有量

成分名	含有量 [%]	官報公示整理番号	C A S N o .
プロピレングリコールモノメチルエーテル	1-3	2-404	107-98-2

### 4. 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに医師の診断を受けること。
- 応急措置をする者の保護 : 救助者はゴム手袋、密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

### 5. 火災時の措置

- 消火剤 : 炭酸ガス、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤等を使用する。
- 使ってはならない消火剤 : 棒状注水
- 特有の消火方法 : 散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤の内、散水以外の適切な消火剤を利用すること。

散水以外の消火剤で消火の効果がない大きな火災の場合には散水する。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

移動不可能な場合、容器および周囲に散水して冷却する。

関係者以外は速やかに安全な場所に退去させる。

漏出した物質や消火用水などが、河川などに流出されないよう配慮する。

消化を行う者の保護 : 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。  
風上から消火する。

---

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

: 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。

漏出場所の風上から作業し、風下の人を退避させる。

漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。

環境に対する注意事項 : 河川などへ排出され、環境へ影響を起さないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 危険でなければ漏れを止める。

漏出物を取り扱う時に用いる全ての設備は接地する。

蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。

二次災害の防止 : 全ての発火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火災の禁止）。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

: 着衣、皮膚、粘膜に触れたり、眼に入らないように適切な保護具を着用する。

防爆の電気、換気、照明機器及び防爆用工具のみを使用し、静電気放電に対する予防措置を講ずること。

局所排気・全体換気

: 局所排気装置を使用するか十分に換気の良い場所で取り扱う。

安全取扱注意事項

: 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。一禁煙。

容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの取扱いをおしてはならない。

取扱い後は、手や顔などをよく洗う。

接触回避

: 情報なし

保管

安全な保管条件

: 容器は密封し、直射日光、雨水、湿気を避け、冷暗所に保管する。

安全な容器包装材料 : 十分な強度を有する容器を使用する。

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 未設定
許容濃度	: 成分 プロピレングリコールモノメチルエーテル 日本産衛学会 未設定 (2009年版) ACGIH TWA 100ppm STEL 150ppm (2009年版)
設備対策	: 防爆の電気、換気、照明機器を使用すること。 静電気に対する予防措置を講ずること。 取り扱う作業場には洗顔器と安全シャワーを設置すること。
保護具	
呼吸用保護具	: 適切な呼吸器保護具を使用すること。
手の保護具	: 有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用すること。
眼の保護具	: 取扱いには保護眼鏡を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	: 保護長靴、保護服、保護前掛けなどの保護具を着用すること。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

外観	
物理的状态	
形状	: 液体
色	: 白色液体
臭い	: 溶剤臭
沸点、初留点及び沸騰範囲	: データなし
引火点	: 62.5℃
燃焼又は爆発範囲の上限・下限	: データなし
比重 (密度)	: 0.98 ± 0.01 (20℃)
自然発火温度	: データなし
粘度	: データなし

---

## 10. 安定性及び反応性

反応性	: 標準条件では危険な反応はしない。
化学的安定性	: 通常の使用条件下では安定である。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤と反応し、火災や爆発の危険性をもたらす。
避けるべき条件	: 高温、スパーク、火気の使用。
混触危険物質	: 強酸化剤、過酸化物。
危険有害な分解生成物	: 燃焼により有害な蒸気、ガス (一酸化炭素、二酸化炭素) など。

---

## 11. 有害性情報

製品の有害性情報

情報なし

## 成分の有害性情報

プロピレングリコールモノメチルエーテル

急性毒性

経口

ラットの LD50 値： 6100, 5200, >5000, 5900 mg/kg (SIDS(2001))、7350 (ACGIH (2001))、7510 mg/kg (DFGOT vol14(2000))。

経皮

ウサギの LD50 値、13000 および 14100 mg/kg (SIDS(2001))。

吸入

吸入 (ガス)：GHS 定義による液体である。

吸入 (蒸気)：ラットの LC50 値 >6 m g /L/4h (>1626 ppm) あるいは>24m g /L/1h (>3252 ppm/4h) ((SIDS(2001))

マウス雄の LC50 値：6038～7559 ppm/6h = 7395～9258 ppm/4h (GLP 準拠；(SIDS(2001))。

吸入 (ミスト)：データなし

皮膚腐食性・刺激性

ウサギの皮膚に 24 時間適用したドレイズ試験において明らかな刺激性を認めず、極めて軽度の刺激で皮膚一次刺激指数 2 の結果(SIDS(2001))に基づき JIS 分類基準の区分外とした。

眼に対する重篤な損傷性又は  
眼刺激性

ウサギを用いた複数の試験でいずれも刺激性が低い、または軽度との結果 (SIDS (2001))。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性：データなし

皮膚感作性：モルモットを用いた皮膚感作性試験 (modified Maguire test) で感作性なし (not sensitizing) の結果(SIDS (2001))が得られているが、OECD で承認された試験法でなく、陽性率など詳細も不明なため分類できない。

生殖細胞変異原性

マウスに腹腔内投与による骨髄赤血球を用いた小核試験 (体細胞 in vivo 変異原性試験) での陰性結果 (SIDS (2001)) に基づき、区分外とした。なお、in vitro 試験では、エームス試験、チャイニーズハムスターの細胞株 (CHO、V79) を用いた遺伝子突然変異試験、染色体異常試験および小核試験のいずれも陰性 (SIDS (2001)) であった。

発がん性

ラットおよびマウスの雌雄に 2 年間吸入ばく露 (OECD TG 453: GLP) により、ばく露に関連する腫瘍発生頻度の増加は両動物種雌雄のいずれの組織においても認められなかった (SIDS (2001))。

生殖毒性

マウスに経口ばく露、ラットには吸入ばく露による2世代生殖試験 (SIDS (2001)) において、ラットの高用量 (3000 ppm) 群でのみ発情周期延長、受胎率低下、仔の生存数・同腹仔数の低下などが認められたが、この所見については同用量で親動物に現れた鎮静症状の持続や対照群に比べ21%の体重減少などの著しい毒性に伴う影響として記述されているので、分類の根拠としなかった。その他の用量およびマウスの2世代試験では性機能および生殖能に対する悪影響は認められていない。一方、ラットおよびウサギの器官形成期に吸入ばく露した試験 (SIDS (2001))、また、ラット、マウス、およびウサギの妊娠期間に経口ばく露した試験 (SIDS (2001)) では、一部の試験で骨化遅延を認めたのみで、催奇形性を含め仔の発生に対する悪影響は見出されなかった。

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

急性毒性試験における麻酔作用に関連する症状として、ラットの経口投与では傾眠、協調障害性歩行、運動失調 (ECETOC 95 (2005))、吸入投与では横臥位、無反応、中枢神経抑制 (SIDS (2001))、また、ウサギの経皮投与では軽度の脱力、し眠から深麻酔の状態まで程度の異なる麻酔兆候 (ECETOC 95 (2005)) がそれぞれ記載されている。これらの結果に基づき、区分3 (麻酔作用) とした。なお、ヒト被験者を用いた試験 (SIDS (2001)、DFGOT vol.14 (2000)) で鼻および咽喉への刺激性が報告されているが、試験物質が有する強い臭気の結果としてデータの歪曲の疑いが持たれているので採用しなかった。

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

ラット、マウスおよびウサギに高濃度の吸入ばく露により一過性の中枢神経抑制、肝臓に軽度の組織学的変化などが認められている (SIDS (2001)) が、13週間 (6時間/日) 吸入ばく露による各試験のNOELまたはNOAELは、ラットで300 ppm (1.11 mg/L) および1000 ppm (3.68 mg/L)、マウスで1000 ppm (3.68 mg/L)、ウサギで1000 ppm (3.68 mg/L) であった (SIDS (2001))。NOELがいずれもガイダンス値範囲を超えていることから、吸入経路では区分外に該当する。また、経口および経皮投与の場合も、ラットの35日間経口投与試験のNOELが919 mg/kg bw/day (90日換算: 357 mg/kg bw/day) (SIDS (2001))、ウサギの90日間経皮投与試験のNOELが2 mL/kg bw/day (1840 mg/kg bw/day) (SIDS (2001)) といずれもガイダンス値範囲を超えており、区分外に該当する。

吸引性呼吸器有害性

データなし

---

## 1 2. 環境影響情報

### 製品の有害性情報

生態毒性	: 情報なし
残留性・分解性	: 情報なし
生態蓄積性	: 情報なし
土壤中の移動性	: 情報なし
オゾン層への有害性	: 情報なし

### 成分の有害性情報

#### プロピレングリコールモノメチルエーテル

水生環境急性有害性	: 魚類 (ニジマス) 96 時間 LC50 > 1000mg/L (EU-RAR 2006) 甲殻類 (オオミジンコ) 48 時間 EC50 > 500mg/L (SIDS, 2003, 他) 藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) での 96 時間 EC50 > 1000mg/L (EU-RAR, 2006)
水生環境慢性有害性	: 情報なし
残留性・分解性	: 情報なし
生体蓄積性	: 情報なし
土壤中の移動性	: 情報なし
オゾン層への有害性	: 該当しない

---

## 1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、若しくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
汚染容器及び包装	: 容器を廃棄する場合は内容を完全に除去した後に処分する。

---

## 1 4. 輸出上の注意

### 〔国際規制〕

陸上輸送 (ADR/R I Dの規定に従う)	
国連番号	: 1 9 9 3
品名	: その他の引火性液体類 (他の危険性を有しないもの)
国連分類	: 3
副次危険性	: 該当しない
容器等級	: III

### 〔海上輸送 (I M Oの規定に従う)〕

国連番号 : 1 9 9 3  
品名 : その他の引火性液体類 (他の危険性を有しないもの)  
国連分類 : 3  
副次危険性 : 該当しない  
容器等級 : III  
海洋汚染物質 : 該当しない  
IBCコード : 該当しない

[航空輸送 ( I C A O / I A T A の規定に従う )]

国連番号 : 1 9 9 3  
品名 : その他の引火性液体類 (他の危険性を有しないもの)  
国連分類 : 3  
副次危険性 : 該当しない  
容器等級 : III

[国内規制]

陸上規制情報 : 消防法、道路法に従う。  
海上規制情報 : 船舶安全法に従う。  
海洋汚染物質 : 該当しない  
航空規制情報 : 航空法に従う

緊急時応急措置指針 (容器イエローカード) 番号

1 2 8

特別の安全対策 :

輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

---

## 1 5. 適用法令

消防法 : 危険物 第4類 第2石油類  
労働安全衛生法  
危険物 : 引火性のもの  
通知対象物質 : プロピレングリコールモノメチルエーテル[496]  
毒物及び劇物取締法 : 非該当  
化審法 : 非該当  
P R T R 法 : 非該当  
船舶安全法 : 引火性液体類  
航空法 : 引火性液体

---

## 1 6. その他の情報

本データシートは、作成時または改定時において、製品及びその組成に関する最新の情報 (危険有害性情報・取扱情報) を集めて作成しておりますが、全ての情報を網羅したものではなく、新た

な情報を入手した場合には追加・修正を行い改訂致します。

また、本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。  
本製品を当社が認めた材料以外のものと混合、当社が認めた使用以外の特殊な条件で使用する場合には、使用者において安全性の確認を行って下さい。

#### 参考文献

独立行政法人製品評価技術基盤機構：GHS分類結果データベース

日本工業規格：J I S Z 7 2 5 3 : 2 0 1 2、J I S Z 7 2 5 2 : 2 0 0 9

国際化学物質安全性カード（I C S C）日本語版

その他関連する安全データシート

---